

# 一般公開の内容を少しだけご紹介！

■国指定重要文化財「安岡家住宅」 住所：香南市香我美町山北979



現在、安岡家住宅では奇数月(7月を除く)に一般公開が行われ、ボランティアガイドの解説を交えた見学会が行われています。今月号では、一般公開の内容や見どころを少しだけご紹介いたします。



■問い合わせ先  
香南市文化財センター(市生涯学習課)  
香南市香我美町山北1553-1 ☎54-2296

## 見どころ その②

### 主屋



安岡家住宅の本門をくぐると座敷の玄関、奥に居室部を囲む塀が見えます。公開の見学は玄関からでなく、特設の階段で座敷部に直接入ります。役人などを接待した南側「座敷部」と、安岡家の人々が暮らす北部「居室部」が連結した構造になっています。

## 見どころ その③

### 道具蔵



道具蔵は移築した建物で、武具や家具、寝具などの物置として利用されてきました。今年になってから見学が可能になり、一般公開の都度、管理者の正俊さんが選りすぐった安岡家に眠る貴重なコレクションが展示されています。

## 見どころ その①

### 表門



安岡家住宅を正面から見ると、まず表門が3つあることに驚かれるかもしれません。東側の「御成門(おなりもん)」、中央の「本門(ほんもん)」、西側の「西門(にしもん)」という名称がついています。それぞれの門には役割が決まっていたそうです。

## 安岡家住宅のこれから

地元である香南市の人々に安岡家住宅を知ってもらい、理解を深めていくことが大切です。そのためには、ボランティアガイドを更に養成するなどして、安定的な見学会が実施できるようにしていくなど、課題が山積んでいます。安岡家住宅の前庭にはつい先日、安岡章太郎文学碑が有志の方々により建立され、安岡家の魅力を発信する土台は着々と整いつつあるようです。

安岡家住宅の魅力を発信していくためには、香南市の人々の理解と協力が不可欠です。見学会にぜひお越しいただいて、安岡家住宅についてより深く知って頂きたいと思います。



# 国指定重要文化財 「安岡家住宅」を知っていますか？

香我美町山北には、2005年7月に国の重要文化財に指定された築200年を超える郷土住宅「安岡家住宅」があります。2019年に7年半かけた保存修理事業が完了し、奇数月(7月を除く)の第4土日に一般公開されていますが、まだまだ市民の皆さんにはあまり知られていません。そこで今回、管理者の安岡正俊さん(やすおか まさとし)のご厚意で、安岡家住宅の写真を多数ご提供いただきましたので、一般公開の範囲で紹介したいと思います。

担当/広報編集委員 宮崎文敬

## ■安岡家住宅とは…?

今から約200年前に建てられた安岡家住宅ですが、実は現在に至るまで増改築が何度も繰り返されています。そのため現在の姿は、主屋の座敷部は文化11(1814)年頃の状態で、他は各々、建立当初の状態に復元されています。家の起りは明和8(1771)年に安岡覺兵衛が本家から分家して、この地に住み、本家から養子にきた廣助が文化6(1809)年に郷土となり、現在の屋敷地を構えました。安岡家は「本家」と、その分家である「お上(うえ)」「お下(した)」「お西(にし)」と呼ばれる4つのお屋敷があったようですが、現在は「お下」と呼ばれる安岡家住宅と非公開の「お上」しか残っていません。安岡家住宅

は約2500㎡の敷地と三棟の表門、屋敷中央の主屋を囲むように米蔵、釜屋、道具蔵が配置され、江戸時代後期の郷土住宅を代表する貴重な歴史建造物です。

## ■安岡家住宅の歴史

古文書によると、安岡の家の先祖は奈良から奈半利に移り住み、その後夜須に土地を領有していました。山内一豊が土佐国主に封ぜられる頃に香美郡(現在の香南市香我美町)山北に移り住んだようです。この子孫は山北の色々な地に移り住み、これに繋がる人達で今でも先祖祭を行っています。夜須にいた時は長宗我部の一領具足でしたので、山内家の入国で浪人となり、お下では

前述の通り郷土職を文化6年に得ています。幕末期の志士として、本家の養子となった覺之助は会津で戦死、お西の嘉助は天誅組で捕縛され処刑、お上の権馬は反明治政府活動で逮捕され死去、お下の恒之進は参勤に従い大坂(大阪)で病死しています。戸主が居なくなり、家の存続は困難だったでしょう。残された女性のみもあり、現在の場所にお下、お上は生き残り、前庭に文学碑がある安岡章太郎はお下の系譜になります。



▲修理前の御成門